

# 学術情報センターだより

Library and Information Technology Center, Nagoya Women's University

## 木簡が語る平城遷都と歴史の真実

竹尾利夫（総合科学研究所長 日本古代文学）

乗車時間は僅か5分足らずであるが、私は必ず車窓に目をやる所がある。近鉄線大和西大寺駅から新大宮駅の区間である。右の窓には朱雀門。そして左には大極殿の巨大な姿が眺められる。そう、古都奈良の平城宮跡の光景だ。昔はどこにでもあるような日本の原風景が広がっていたが、史跡として保護されてからは広大な野原と変わり、やがて発掘調査が進むにつれて、古の都が姿を見せ始めた。ちょうど今年には平城遷都1300年。和銅3年（710）、奈良盆地の北端に都が造営されてから1300年という節目を迎えた。

古代文学を専門とする関係もあって、古都奈良へは訪れることが多い。今年4月の平城遷都1300年の記念イベントに始まり、学会の開催、遺跡調査などで幾度か足を運んだ。現在、奈良の地を訪れる人々を魅了するのは、4月に復元された平城宮の第一次大極殿であろう。この建物は大きく壮麗である。『万葉集』に“あをによし奈良の都は咲く花のにほふがごとく今盛なり”と歌われた、天平の唐風文化が色鮮やかによみがえったと思うばかりだ。

ところで、平城宮跡に復元された第一次大極殿は、いつ建てられたか、正確にはわからない。『続日本紀』によれば、和銅元年（708）2月、元明天皇は藤原京から平城京へ遷都の詔を発し、和銅2年12月に平城京へと行幸した。ただし藤原京に戻った記事はない。また、年が改まった和銅3年（710）正月、天皇は元日朝賀の儀式を「大極殿」でおこなっている。この元

日の儀式は年間行事の中で最も重要であり、大極殿は宮の儀式空間としての中樞をなした。そして2ヵ月後、『続日本紀』は3月10日の条に「はじめて都を平城に遷す」とある。藤原京から平城京への遷都である。すると、既述の和銅3年正月の儀式は、藤原宮でのことであったのか、それとも平城宮であったのか、『続日本紀』にその記述がなく不明であった。主に古文献を史料として扱う、文学や歴史学といった学問の研究手法の限界はこうしたところにあった。

しかし、長年の疑問に近年、終止符が打たれた。それは1枚の木簡の発見である。復元された大極殿の工事に先立つ発掘調査で、和銅3年3月の紀年をもつ「伊勢国安濃郡阿刀里……」と書かれた荷札木簡が出土したのである。この木簡は都の造営に従事する者へ支給する米などを運搬した際の荷札であろうか。重要なのは大極殿回廊下の地層より出土したという点である。なぜなら平城京へ遷都した3月の時点では、回廊は無論のこと大極殿の建物さえも未完成であったことを木簡は示唆している。今日「木簡」と呼ぶ千数百年前に破棄された板切れに、墨で書かれていた文字が学問の論争を決着に導いたといつてよい。

木簡のデータベースは、現地の研究施設に赴かなくとも、本学の学術情報センターから容易に入手できるようになった。かつての書物をひもとく図書館機能を大きく超えたところに現代の“図書館”があるといえる。学問の情報化を痛切に感じる日々である。

### ◎ 目 次 ◎

巻頭言 木簡が語る平城遷都と歴史の真実	1
〈図書館活用入門〉レファレンスサービスを利用しよう！	2・3
「図書館 情報活用ガイド」刊行のお知らせ	4
〈資料紹介〉『子どもの人権問題 資料集』	5
〈学術情報センター IT 講座〉ウィルス対策の基礎知識	6・7
お知らせ	8



## ◆人名違い？ オンライン百科事典で検索

『オンライン百科事典 JapanKnowledge』で「高橋真卿」で検索してみてもヒットしませんが「真卿」だけにすると4件ヒットした中に「高瀬真卿」があり、「高瀬羽阜」を参照するようになっています。「高橋」ではなく「高瀬」が正しい苗字のようです。また「高瀬羽阜」という別名もあるようでした。

## ◆専門辞典類で再確認

『人物レファレンス事典』にも「高瀬羽阜」という名前で載っており、参照資料の『世界大百科事典』(031/26/19)に「東京感化院を設立した」とあります。質問者に確認したところ「東京感化院」を設立した人物で間違いのないとすることで資料を案内しました。

ちなみに「高瀬真卿」の名前では前出の『社会福祉辞典』、『講談社日本人名大辞典』、『社会福祉人名資料事典』にも掲載されていました。

## Q 昔の家庭科の教科書が見たい。どんな調理実習を行っていたかを調べたい。[汐路]

A 蔵書検索をしても最近の教科書しかヒットしないとのことでした。

## ◆蔵書検索を使いこなす

本学図書館の蔵書検索の結果一覧は**新しく発行されたものから表示**されるようになっています。詳細検索で検索条件入力画面の一覧表示方法を「出版年逆順」に変更すると昔のものから表示されます。また図書館では本の内容を請求記号という数字で分けて配架しています。家庭科の教科書であれば蔵書検索の請求記号の欄に「375.5(技術・家庭科)」や「375.9(教科書)」という番号になります。請求記号の欄に「375」の数字を入れて検索をすると1965年からの教科書がヒットしました。大正～昭和初期の教科書を復刻した『文部省著作家庭科教科書シリーズ』(375.9/171/1-29)などが見つかりました。

## ◆基本事項を調べる

調査をする上ではその事柄の基礎知識を確認することも必要です。『オンライン百科事典 JapanKnowledge』で「家庭科教育」を検索すると現状から歴史のほか、参考資料や関連学会のWEBサイトも参照できます。また『文部科学省のHP』(<http://www.mext.go.jp/>)で「家庭科教育」を検索すると、『我が国の家庭科教育の経験と特徴』という文書がヒットし、明治16年からの5年間に初等教育で教えられていた際は「家事経済」と呼ばれていたことがわかります。得られた情報を元に「家事」のキーワードで蔵書検索をしてみると『応用家事教科書』(請求記号590/364/7)などの教科書の復刻版が本学図書館にもあることがわかりました。

## ◆国立国会図書館のサイトから調べる

明治期など昔の文献については国立国会図書館がWEBサイト上で公開しているものがあります。『国立国会図書館の近代デジタルライブラリー』(<http://kindai.ndl.go.jp/index.html>)を「家事経済」等のキーワードで検索をすると明治～昭和の教科書がヒットし、本文をWEBサイト上で見ることができます。なおマイクロ資料『国立国会図書館所蔵 明治期刊行図書マイクロ版集成 家事 [部門]』(590/443/1-125/MF174-714)は本学図書館で所蔵していますので、マイクロ資料で閲覧することもできます。このほか国立国会図書館のサイトの中には『リサーチ・ナビ』(<http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>)という調べ方やツールを紹介しているサイトもあり、「教科書」の調べ方も載っています。

## ◆他の図書館の資料を利用する

戦後の教科書については、(財)教科書研究センターのWEBサイトに昭和22年以降の教科書が検索できる『教科書目録情報データベース』(<http://mokuokudb.textbook-rc.or.jp/kyoka/KYL010.aspx>)があり、使用年度や学校種別を指定して検索ができ、所蔵先もわかります。また戦後の教科書は愛知県の教科書センターでもある『名古屋市鶴舞中央図書館』、『愛知県総合教育センター図書資料室』でも一部所蔵があり、貸出はできませんがコピーをすることができます。このように、本学図書館以外の機関に直接行ってみるということもできます。

## ◆ 「図書館 情報活用ガイド」 刊行のお知らせ ◆

学術情報センター図書館では「図書館情報活用ガイド」を刊行しました。大学生活にあたって、図書館の活用はさまざまな場面で必要になります。このテキストではレポートや論文の作成、就職活動など、いざという時に役立つ情報活用法を解説しています。ここで得た基礎知識がどのような場面で役立つのか、「図書館情報活用ガイド」を開いてみましょう。



「図書館情報活用ガイド」は図書館にあります。



学術情報センターHPからもダウンロードできます！  
<http://libweb.nagoya-wu.ac.jp/guide/katsuyoggaido2010.pdf>

### ■ キャリアデザインのための情報収集 (p.3～)

これから社会に出るにあたって、自分の将来設計を主体的に行うこと、またその実現のために必要な知識やスキルを身につけることが大学生の「キャリアデザイン」です。

この章では、就職活動のカギとなる情報収集力アップのためのヒントを紹介しています。

就職までのステップの中で図書館を活用して情報を収集し、自分のキャリアとは何かを探求しましょう。

- ・社会情勢や時事問題を把握するために  
……[新聞記事を検索](#)
- ・業界のトレンドを知るために  
……[雑誌記事を検索](#)

※「就職活動に役立つ情報」として、インターネット上の就職関連サイトも掲載しています。

### ■ レポート・論文作成のための資料収集 (p.7～)

授業のレポートや卒業論文など、何から始めればよいのか、どのようにまとめればよいのか悩むことはありませんか？

この章ではレポート・論文作成の中で必要となる「下調べ」や資料収集からレポート完成までのステップを解説しています。

レポートの“基本”を身につければ、卒業後社会に出たときにも様々な場面で役に立ちます。一連の流れを理解したうえで、これまでの自分のレポート・論文の書き方を振り返ってみましょう。



レポートで迷ったら？

### ■ 情報検索ナビゲーション ～データベースの利用法～ (p.16～)

図書館では情報検索のためのデータベースや、学習・研究支援のためのオンラインサービスをさまざまな形で提供しています。ここからの章では、各種データベースを使っての情報検索と、必要な文献を実際に入手するまでの手続きを説明しています。

知らなければもったいない、使いこなせばどんどん伸びる！

図書館のデータベースを見てさわって、情報活用力を身につけましょう。

- ・雑誌論文・記事の検索
- ・新聞記事の検索
- ・文献複写（コピー取り寄せ）の依頼方法など

### \* 講習会のお知らせ \*

図書館では「図書館情報活用ガイド」をテキストとして、各学科、学年向けにテーマ別の講習会を開いています。授業の一環で催されるときは勿論のこと、図書館主催で開かれる講習会にも積極的に参加してください。

#### 〈過去の講習会〉

- ・卒業論文・卒業研究のための文献収集
- ・就職活動のためのデータベース活用
- ・雑誌論文の探し方



ステップアップのチャンスです！  
お問い合わせは図書館カウンターまでどうぞ

## ◆ (資料紹介) 『子どもの人権問題 資料集成』 ◆

川上輝昭 (文学部)

明治初期から第二次世界大戦終了までを中心とした我が国の子どもに関する資料集は数多く発刊されています。その中でここでは室田保夫編集『子どもの人権問題』(不二出版)を取り上げてみます。戦前の子どもに関する詳細な資料が復刻版として集成されており、全 10 巻にまとめられています。

発刊にあたりその目的が、「児童の世紀、だったはずの 20 世紀、近代日本の子どもたちは、戦争と貧困の時代をどのように生き抜き、また社会はその保護・育成につとめたのか。養育者のいない子ども、悪環境によって反社会的行動に追いやられた子ども、犯罪とかかわった子ども、虐待を受けた子ども、障害をもつ子ども、病弱な子ども、貧困ゆえ学ぶ機会を奪われた子ども、過酷な労働を強いられた子ども……。子どもの人権の見地から近代日本社会を生きた子どもたちの様相を明らかにし、社会が、国が、子どもたちに何をし、何ができなかったかを検証するための資料を提供するものである。」と記されています。巻別に取り上げられている要旨は次の通りです。



▲ 『子どもの人権問題資料集成』  
天白開架 369.4/271/1 ~ 10

### ■ 『子どもの人権問題 資料集成』 要旨

1 巻	子どもの養護Ⅰ	—小野衆善院、東京市養育院、福田会育兒院 他
2 巻	子どもの養護Ⅱ	—暁星園、横浜孤兒院、北海孤兒院 他
3 巻	子どもの養護Ⅲ	—東北育兒院、富士育兒院、静岡育兒所 他
4 巻	子どもの保護教育Ⅰ	—不良児と其の環境、群馬学院児童診査報告、東京感化院沿革 他
5 巻	子どもの保護教育Ⅱ	—幼年保護会要覧、山梨塩山至誠学園要覧 他
6 巻	子どもの保護教育Ⅲ	—盗癖児の 150 日教育、決戦下少年教護事業推進の具体的緊急方策 他
7 巻	少年保護	—淡路島に於ける感化、特殊教育ノ概況 他
8 巻	子ども虐待	—児童虐待防止法案逐条説明、児童虐待防止法ニ関スル法律制定ノ件 他
9 巻	子どもと健康	—横浜根岸学校盲啞部報告書、岩手盲啞学校楽善会報告書 他
10 巻	子どもと貧困・労働	—夜間通学青少年労働者生活状態、夕刊売少年の調査 他

私はかつて瀧乃川学園(東京都国立市)を訪ねたことがあります。瀧乃川学園は石井亮一によって 1891(明治 24)年に設立された我が国における最初の知的障害児施設です。広大な学園敷地内には木立が生い茂り、児童から成人まで、知的障害児・者の方々が年齢や性別を超えて生活できる各種の施設が整備されています。明治期においては廃人、非人等と称されていた知的障害児を保護して生活を支えるとともに教育にも尽力した石井の先見性から多くのことを学ぶことができます。公的な補助や援助制度が確立されていなかったため、学園の運営、管理は私財と寄付によって支えられていました。私財を投じて知的障害児の保護と教育に取り組んだ石井の崇高な理念と実践力は福祉の原点として今も輝き続けています。学園内には生活棟や訓練棟の他に「瀧乃川学園福祉文化室」も設置されており、そこには同学園の 120 年の歩みに関する各種の資料が保存されています。

現在、子どもたちをめぐる問題はきわめて深刻な状況にあります。例えばいじめ、不登校、虐待、貧困、障害等、いずれの問題も複雑化かつ多様化してきています。多大な犠牲を払って戦後に確立された現代の児童観、すなわち児童福祉法、児童憲章、そして児童の権利に関する条約等の内容に示されている子どもの幸せや権利に関する諸事項を日々の生活の中で生かしていくこと、それは福祉や教育に携わる者はもとよりすべての国民に課せられている共通の課題といえるでしょう。

この『子どもの人権問題』は内容が豊富であり、子どもの福祉に関する歴史を学び未来を展望するうえで価値ある資料集です。子どもの福祉を学ぶみなさんだけでなく、より多くのみなさんが有効に活用されることを期待しています。

## ◆ 《学術情報センター ICT 講座》 ウィルス対策の基礎知識 ◆

### 1. コンピュータウィルスとは

コンピュータ及びインターネットの急速な普及により、コンピュータウィルスはその数を現在も増やしています(図1)。ウィルスの種類は2007年から2010年の3年間で約10倍の約5000万種類にまで増加し、今もなお増え続けています。

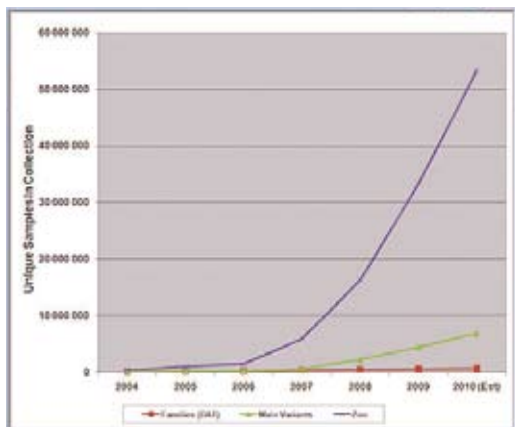


図1 ウィルスの種類  
出典：McAfee (<http://www.avertlabs.com/>)

また、ウィルスのタイプも変化してきています。過去のウィルスはプログラムやデータの破壊、外部 Web サイトへの攻撃や迷惑メールの送信などを行っていました。しかし近年では、上記に加えクレジットカード番号や ID・パスワードなどの個人情報を盗み出すものに変わってきています。近年流行している「ボット」に感染したコンピュータは悪意のある第三者に乗っ取られるため、知らない間に犯罪の踏み台にされ、「被害者」でもあると同時に「加害者」にもなってしまいます。(図2)

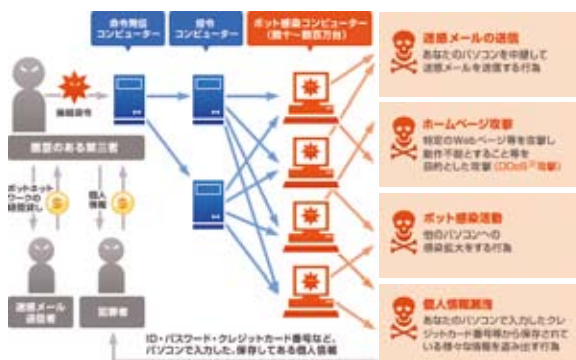


図2 Bot の脅威  
出典：CCC (<http://www.ccc.go.jp/>)

では、どうすればウィルスからコンピュータを守れるのでしょうか。次節では防衛手段について紹介します。

### 2. ウィルス対策

ウィルス感染を防ぐために、以下の (ア) ~ (カ)

について必ず行うようにしてください。

#### (ア) 最新版のウィルス対策ソフトを使う

1 節でも述べましたが、増え続けるウィルスを検出し駆除するにはウィルス対策ソフトが最新の状態である必要があります。多くのウィルス対策ソフトはコンピュータ起動後に自動的に最新状態に保つ機能を持っていますが、安全の為にコンピュータ起動後に手動でウィルス対策ソフトを更新するようにしましょう。

また、コンピュータ購入時に付属しているウィルス対策ソフトの多くは1年程度の限定版であるため、継続して使用するには利用契約を行うか別のソフトに入れ替える必要があります。常に最新状態で利用できることが大切ですので、無償・有償を問わず必ず導入してください。

#### (イ) 使用ソフトを最新状態に update する

ウィルスは Windows やアプリケーションのセキュリティホール(セキュリティ上の「穴」、つまりは弱点です)を利用して感染します。ウィルス感染を防止するには、この弱点を直すことが非常に重要です。以下のソフトは利用頻度が高くウィルスに狙われやすいので、Microsoft Update や最新バージョンへの update を定期的に行ってください。

- ① Microsoft 製品 (Windows や Office 製品等)
- ② Adobe Reader
- ③ Adobe Flash
- ④ Java
- ⑤ QuickTime や iTunes

#### (ウ) サポートの切れた製品は使用しない

メーカーサポートの切れた製品はセキュリティホールが発見された場合でもセキュリティパッチが提供されないため危険です。利用を控えることが必要です。

#### (エ) 外部から入手したデータはウィルスチェックを行う

メールや Web からダウンロードしたデータ、また USB 等の記憶メディアなど外部から入手したデータにはウィルスが潜んでいる場合があります。特に USB メモリを介したウィルス(図3)は、Windows パソコンに USB 等の記録メディアを接続したときに自動的に実行される機能を悪用しており、近年流行しています。本学以外の大学でもこのタイプのウィルス感染が広がっており、主に論文やレポート作成段階で共有パソコンに感染したため被害が広がっているようです。



図3 出典：CCC (<http://www.ccc.go.jp/>)

大学や自宅コンピュータはもちろんのこと、不特定多数の人が共有するコンピュータで USB メモリ等記録メディアを利用する際には特に注意が必要です。またこれらのウイルスは USB メモリ以外でもパソコンに接続したデジタルカメラ、ミュージックプレーヤーにも感染するため、注意が必要です (図 4)。



図4 出典：CCC (<http://www.ccc.go.jp/>)

これらを利用する際には、必ずウイルスチェックを行う習慣をつけてください。

(オ) ファイアーウォール機能を使う

ファイアーウォールとは、「防火壁」と直訳できるようにコンピュータを外部の攻撃から守る機能です。まず、この「ファイアウォール」で不正や通信を遮断し、必要な通信だけ「許可」することにより安全に利用することができます。ただし、ウイルスの侵入はこれだけでは完全に防ぐことができませんので、ウイルス対策ソフトは必ず導入してください。

(カ) バックアップを行う

いざという時のために、レポート等の重要なデータはバックアップをとっておきましょう。近年はインターネット上でデータを保管するオンラインストレージが安価に利用できるようになっています。本学が導入している「Windows Live @Edu」というサービスでは、SkyDrive という名称で 25GB ものデータを保管できます。大事なデータは SkyDrive も含めた複数の保存先にバックアップしておくとい

でしょう。バックアップはウイルス対策としてだけでなく、パソコンや USB メモリの故障や紛失、操作ミス等によるデータ消失対策としても有効です。SDEplorer (BASE 版 は 無 償：<http://www.cloudstorageexplorer.com/>) を用いれば explorer から SkyDrive 上のデータを操作できるようになります。(図 5)



図5

3. ウィルスに感染した場合

ウイルス感染が発覚した場合、まずは 2 次被害を防ぐことが大切です。ウイルスを発見したコンピュータ及び使用していた USB メモリ等記録メディア、ならびにその記録メディアを利用したことのあるコンピュータの使用を直ちに中止し、学術情報センターに連絡をしてください。

4. まとめ

現在、コンピュータウイルスは爆発的に増え、ウイルスのタイプも年々変化し、感染した場合個人情報への漏えい等犯罪の「被害者」になるだけでなく、犯罪の「加害者」にもなりかねない状態になっています。ウイルスに感染しない、また感染しても困らないためには以下の 4 点を心がけてください。

- ①ウイルス対策ソフトを導入し、常に最新の状態にする
- ② Windows や使用しているソフトは適時 update を行い、サポートが切れたものは使わない
- ③外部から入手したデータはウイルスチェックを行う
- ④ファイアーウォール機能で外部の攻撃からコンピュータを守る
- ⑤いざという時のためにバックアップを取っておく  
ウイルス感染への感染が分かった場合は早急に学術情報センターにご連絡ください。

5. 参考資料

- ・サイバークリーンセンター (CCC)  
<http://www.ccc.go.jp/>
- ・国民のための情報セキュリティサイト  
[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/security/](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/security/)
- ・情報処理推進機構 (IPA)  
<http://www.ipa.go.jp/security/>

# お知らせ

## ● 学術情報センターホームページ 新サイトの公開

学術情報センターのホームページに新しいコンテンツが追加されました。

### = 教員著作一覧 =

図書館で収集している本学教員の著作物が、ホームページ上で一覧から検索できるようになりました。専門分野の理解を深めるため、またレポートや論文作成のため大いに学んでください。

### = 資格取得支援サイト =

各学科で取得可能な資格、サポートしている資格に関する参考書や問題集を図書館で探すことができます。



## ● 【教職員対象】 日常のセキュリティ手引書の公開



手引書は  
こちらから。

パソコンのセキュリティには、日常的に皆様自身で気をつけていただく必要があります。そのための手引書を学術情報センターホームページの「パソコンを使う」→「ヘルプ(マニュアルなど)」に掲載しました。特に例年後期は研究室でUSBメモリウイルスの感染が多発しています。教員皆様は十分気をつけていただきますようお願いいたします。

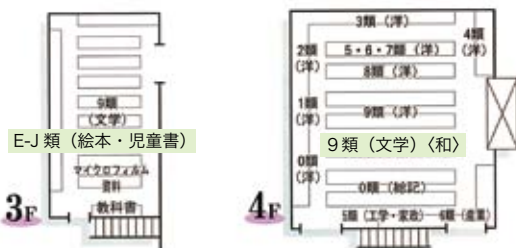
## ● 【図書館・汐路本館】 新着図書掲示板のお知らせ

新着図書案内の掲示板に、図書館からのひとことコメントが掲示されているのをご存じですか？ 図書館スタッフおすすめの本をピックアップし、紹介文や感想を掲載しています。難解そうに思える本も、こんな内容なら読んでみたい！ 掲示板を見て読みたくなったら、図書館でぜひ手にとってみてください。



▲ 汐路本館 中央館 1F

## ● 【図書館・天白分館】 配架場所変更について



▲ 天白分館 開架書庫

天白分館の開架書庫の資料を移動しました。今まで書庫4Fにあった児童書(J類)と絵本(E類)を閲覧室と同じフロアの3Fに移動し、より利用しやすくなりました。また書庫3Fの文学(9類)の資料の一部を4Fに移動しました。資料の場所がわからない場合は、カウンターまでおたずねください。

名古屋女子大学 学術情報センターだより 第56号 発行日：平成22年10月1日

発行：名古屋女子大学学術情報センター  
〒467-8610 名古屋市長穂区汐路町3-40

● 図書館 TEL (052) 852-9768  
● システムサービス TEL (052) 852-1120